

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム ポランの広場いなせ

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500105		
法人名	株式会社 文化タクシー		
事業所名	グループホーム ポランの広場いなせ		
所在地	〒023-1132 岩手県奥州市江刺稲瀬字水先629		
自己評価作成日	平成 年 月 日	評価結果市町村受理日	平成30年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0391500105-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年9月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2011年2月1日に、「認知症対応型共同生活介護施設」と「小規模多機能型居宅介護施設」を併設して江刺稲瀬地区に開設させて頂き、今年で7年目になる『小規模多機能ホーム・グループホームポランの広場いなせ』という介護事業所です。
『ポランの広場』とは、宮沢賢治の幻想豊かな童話のひとつで、皆が元気で自分らしく楽しめる広場、明日への活力を養う事ができる理想郷という内容です。その理想郷が、決して童話の中だけの幻想世界ではない事を目指す場所でありたいと思う気持ちから、宮沢家様より著作物の使用許可を得て命名致しました。
今年で開設7年目の現在は、まだまだ理想郷と呼べる状況にはありませんが、少しでも近づける為には更なる努力を続けて行かなければならないと思われまます。今はまだ発展途上の状態ですが、今後もポランの広場としての自助力も怠らず、且つ、地域の皆様の暖かい心とふれあいながら、介護理念の原点でもある共助の精神で職員と利用者様が同じ人間として尊重しあいながら、研鑽を重ねて共に成長して行ければ良いと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園地帯の広々とした敷地に平屋の小規模多機能ホームと併設して設置されている。敷地内の菜園では、利用者やボランティアと協働し多くの農作物を収穫している。利用者の思いに沿って、安全に安心して日常を過ごすことができる生活の場となっている。職員全員が「気づきノート」を活用し、利用者の立場に立ったケアの在り方を検討し、改善策等を共有している。子育て中の職員からは、突発的な事情にも勤務調整等の配慮があり、働きやすい職場との声も聞かれる。水害、地震、火災に対する防災計画が作成され、消防や近隣の住民の協力を得られる体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム ポランの広場いなせ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰もが見える場所に職員全員で作成した介護理念を掲示するとともに、毎朝のミーティング時には介護理念の唱和を行い共有して実践につなげている。	職員全員で話し合って策定した介護理念を毎朝のミーティングの際に唱和している。理念のキーワードの「共に」とは、利用者を敬い、つつ、フラットな関係で一緒に生活をしていくという思いが込められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の産直に出かけたり、招待されて地域の新年会や忘年会に参加、或いは地区運動会にも招待されて見学したりしている、また、地域の防災訓練にも参加し、地域とのミーティングを行いながら避難時には協力を得る体制作りを行っている。	自治会に加入していないものの、市広報誌が配布されるなど支障はなく、地区運動会等の行事にも招待され参加している。園会報を地域の住民に回覧し、夕涼み会、敬老会等の行事への参加を呼び掛け、手踊りボランティア等として来所している。	地理的環境等から地域との交流が難しい面もあるが、昨年からは保育園児との交流が始まり、今後、更に運営推進会議や会報等を活用して住民等との交流の充実が図られるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々のグループホームへの理解度徐々に向上していると思われる。また、災害時には支援していただくだけでなく、地域の災害弱者への避難支援も地域の災害対策計画委員とコミュニケーションをとりながら、事業所から地域への貢献を考えていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議では、事業所から活動状況や利用者状況等の報告を行うと共に、委員の方々から意見を求め、時々雑談を交えながら、意見交換を行っている。また、委員の皆様から出た意見はサービスの向上に活かせるよう努力している。	2ヶ月に1回、小規模多機能ホームと合同で開催している。毎回、警察や消防関係者、行政区長、民生児童委員、利用者家族等が出席し、情報や意見の交換の場にもなっており、園案内看板の設置等が話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席いただいております、事業所の状況やサービスについてのご意見をいただいております。また、定期的に相談員にも訪問いただき、助言をいただく等して協力関係を築いている。	認知症相談員を定期的に受け入れ、利用者とは面談している。要介護認定申請等の際に、市担当者を訪問し、運営状況、生活保護受給の利用者、利用料未納問題等について、報告や相談をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての職員の認識については、少しずつではあるが認識が進んでいると思われる。「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」への正しい理解と身体拘束をしないケアの統一された共通認識を更に深めていきたい。	利用者に対しての不適切な言動やスピーチロックへの対応については、その都度又は会議等で注意喚起している。今後、身体拘束適正化について推進していきたいとしている。	スピーチロックを含めて身体拘束適正化の理解や対応について、積極的に研修に参加するなどして、体制の整備を図っていくことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対見過ごされてはならない事であるという認識を職員間で共有し、防止の徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、事業所での実績と必要性があまり無かった為、権利擁護等については後回しになり、特に調整しての勉強会等も開催していなかったため、現状では職員全体が十分に理解しているとは言い難いと思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項説明書等を提示して、なるべくわかりやすく説明し、理解してから契約いただける様に配慮している。質問等にも十分納得していただける様にできるだけわかりやすく答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族様にも出席いただき、他の委員の方々と一緒に意見交換を行う等して、なるべく意見は運営や支援に反映させるように努めている。	面会時や利用者の近況を記載した連絡票を家族に送り、また、運営推進会議の際に問いかけし、意見を含めて何でも話せるような雰囲気づくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員全体会議において、職員から意見や提案を聞き、改善につながるものは積極的に取り入れて運営に反映させるようにしている。	利用者に関することが多いが、普段の業務で感じていることを記入する「気づきノート」を活用し、月1回開催する職員全体会議で話し合いをしている。利用者の食事の際の自助具を用意するなどして、業務の軽減に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況や実績を把握し、介護職員処遇改善金等の報酬に効果的に反映させてやりがいにつなげるようにしたり、自己評価を行う事で自らの課題と向き合える機会を設けたりして、各自の向上心につなげるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修の案内があれば職員に周知し、積極的に研修参加の機会をつくる等して職員のスキルアップにつなげるようにしている。また、職員が順番で認知症介護実践者等養成研修に参加し、自らが課題を設定して取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での研修会や、協会内の奥州ブロック活動計画として他施設との職員の交換研修活動に積極的に管理者及び職員が参加し、サービスの質の向上に活かせるよう努力している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談や相談時に本人や家族から困っている事や不安に思っている事等をお伺いし、疑問にも一つ一つお答えして安心していただくよう努め、実際のかかわりにおいても良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談時等に家族等が困っていることや不安な事、要望等をあらかじめお伺いし、スムーズにサービスを導入する事できるように努め、本人や家族に安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の困っている事や必要とされるサービスを見極めるため、面談を中心に検討するとともに他事業所・病院等からの情報を参照する等して当初の支援方法を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の介護理念『共に向き合い・共に笑顔で・共に支え・共に生きる』の精神を基本に、職員と利用者が同じ時間と空間を共有して生活しながら、お互いに尊重しあい、相互理解と信頼関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族がこれまで通りの関係を続けていけるように、普段の生活状況や身体状況等の報告を行いながら、本人の支えとして事業所と一緒に協力していただける環境を整えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、知人等、馴染みの方の面会時には、ゆっくり過ごしていただける環境を作るよう心がけており、外出や外泊も支援して、これまで馴染んできた人や場所との繋がりを大切にしていけるよう支援に努めている。	家族等の面会は、談話室や居室でゆっくり過ごせるように配慮している。月1回の訪問理容師や定期的に訪れ花壇や菜園を一緒に手入れしているボランティアと新たな馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮して席の配置等を工夫して日常生活がスムーズに送れるような支援に努めている。 また、ひとり孤立しないように見守りや声掛け等の支援をし行っていく。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、それまで築いてきた関係を大切に、いつでも相談に応じることができるよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人に日常的に寄り添うことで信頼関係を深めながら、希望や意向を普段の生活の中から把握するように努めている。	日々の関わりの中で声掛けの反応、表情、行動等を通して思いや意向の把握に努め、気づきノートに記録している。利用者の思いに任せ、大半の利用者が居室を離れ、ホールで自由に過ごしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報や利用者との日常のコミュニケーション等により、みえてくる生活歴やそれまで暮らしてきた環境を把握するようにし、それまでの生活を出来るかぎり維持できるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状況観察で、一人一人の様子や変化等を把握し、申し送り等で情報を共有し、一人一人の変化等に対応して、出来ることを無理のない範囲で行っていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人との日々の関わりを通して感じた事等を職員、関係者で情報を共有し、カンファレンス等にてケアプランの見直しを行い、現状に即した計画を作成している。	日頃から職員間のミーティング等で利用者の情報を取りまとめ、主にケアマネと担当職員で概ね3か月ごとに検討し、介護計画の評価、見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や会話等から得た情報や気づき等を個別に記録して情報の把握と共有を行い、支援の実践や介護計画の見直しに反映されるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意見や意向を傾聴し状況の把握に努めながら、様々な変化やニーズに出来る限り対応できるよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所による各種行事等には、地域の保育所やボランティア団体の協力をお願いしたり、地域の行事等には招待されて出かけていったりして地域との繋がりを大切に、利用者の楽しみを通して心身の安定を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的な受診等、適切な医療を受けられるよう支援している。また体調の変化等の応じて連絡できる体制を整えている。	利用者の大半が、入居前のかかりつけ医に家族同伴で受診し、必要時には介助者を頼んで受診することもある。医師からの指示は、家族から口頭で看護師やケアマネに報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は日常的に利用者情報等に対応しており、体調の変化等の場合は看護師と連絡をとって適切な処置を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関との情報交換を行う等、医療機関との連携を図り、経過や状況等の情報交換を行って、今後の支援方法等の方向性を家族も交えて相談しながら医療機関との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に重度化や終末期等の際の医療的処置や当事業所で出来る事と出来ない事の説明を行い、当事業所で出来ない場合の対処方法等の情報も本人や家族と話し合いを行って理解していただいている。	看取り介助は、実施したことがないことを利用者が家族に説明し、理解をいただいている。利用できる訪問診療の医療機関がないこと、協力医療機関が北上市でかかりつけ医としている利用者がいないため、連携が難しくなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は緊急マニュアルや緊急時の連絡先等の対応について目を通しており、速やかに対応できる体制を整えている。応急手当や初期対応については看護師よりの定期的な研修を考慮中である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所としての避難訓練は年2回実施しており、内1回は消防署立会いで全職員を対象に行っている。 また、地域による避難訓練や防災会議にも参加させていただいて、緊急時の地域からの協力体制も整いつつある。	年2回避難訓練を行い、夜間想定訓練も実施している。水害、地震、火災の防災計画を作成し、一時避難所を高台の緑化センターに見直した。地区の防災計画に災害弱者として位置付けられ、水害等の際には住民が駆け付けることになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格を尊重し、人生の先輩であるという配慮を忘れずに、その方にあった声がけやその時々合った対応を心がけている。	利用者への呼びかけは、同姓が多いので、名前ですん付けで呼んでいる。排泄への誘導は、小声でさりげなく声掛けしている。広報誌等の写真掲載に関しては、予め本人、家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で利用者一人一人の希望や自己決定を引き出せるよう配慮し、それぞれの思いを傾聴して受け止めるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のリズムやペースを大切に、各々でやりたい事や趣味等があれば希望に沿えるよう心がけて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を希望により利用していただいて身だしなみや清潔感を損ねないよう配慮している。日常の洋服選びも本人の意向に沿いながらも気温等を考慮しながら季節感にあったものになるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態によっておかゆやミキサー食を提供しており、副食については管理栄養士のいる業者に委託して栄養バランスを管理している。その他の食材については近隣の産直に利用者とは出かけて食材調達し、調理法等と一緒に考えている。	菜園で利用者が収穫した野菜(なす、キュウリ、ミニトマト、枝豆、ピーマン等)も食材として利用している。可能な利用者は、配膳やテーブル拭きなどを行っている。月に何回かは利用者の希望に応え、カレーライスや季節料理を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副菜の栄養バランスは業者に委託しているが、食事摂取量や水分補給量は個々によって食事制限等もあり、記録しながら調整を行って経口摂取による健康管理に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には個々の能力を考慮して、声かけや見守り、一部介助、全介助等を行い、口腔内状態の確認や義歯の確認を行って異常がみられた場合は家族と連絡をとって歯科受診の対応をお願いする等して口腔内の健康にも配慮している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを記録し、把握して自尊心に配慮しながら声かけや誘導を行い、トイレで排泄できるよう自立に向けて支援している。	一人ひとりの排泄パターンを記録した排泄チェック表により、トイレ誘導を行うなど排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間の排泄は、自立者は2人、リハビリパンツ、パット使用者は7人となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に記録して一人一人の排泄状況を把握し、水分摂取量をチェックしながら声かけ等で水分補給していただき、適度の運動等も取り入れて便秘の予防に努めている。内服薬の対応も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前はバイタル測定を行い、健康状態をみながら、無理のない入浴をしていただいている。基本的に入浴日を設けているが、状況によって随時対応している。	基本的には、週3回、1人20分～30分で個浴としている。浴室、脱衣、ドライヤーを女性職員3人で対応し、この機会を利用し、利用者とのコミュニケーションを深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活のリズムを把握し、室温や湿度等にも配慮して、安心して眠れるような支援を行っている。また、状況や体調によって、声かけで休息の提案を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の内服薬や外用薬について理解し、服薬の種類や時期についても把握しており、確認もできるようになっている。また服薬の際には職員同士が相互確認しながら服薬していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書、カラオケ、縫い物、TVでのスポーツ観戦等の趣味に興じたり、天気の良い日は外気浴を兼ねてドライブ等で外出したりしている。また個々の能力に応じて畑や花壇の世話、洗濯物を干したり畳んだりしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	初詣やお花見、紅葉狩等の季節を感じていただけるドライブや市内の観光地でそれぞれがメニューから好きなものを選んで食事を楽しんだり、地域の運動会に招待されて見学に出かけたり等、地域の人々に協力をいただきながら外部とのふれあいを楽しめるよう支援している。 また家族との外出や外泊も支援している。	天候が許せばなるべく外出の機会を作るようにしている。公園や産直に出かけているが、最近は利用者から「遠い」と言われあまり歩きたがらなくなっている。家族との通院の帰りにドライブや外食をする利用者もいる。季節ごとにお花見、紅葉狩り等のドライブに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は個々の預かり金として事業所で管理しており、買い物等で個人が使用する際は家族とも相談して本人の希望に沿えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人等からの電話や手紙は本人に取り次ぎ、希望があれば時間や状況をみて本人から家族へ電話できるようにして外部との交流が円滑に継続できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人が心地よく生活できる空間を意識してテーブル配置を工夫したり、浴室やトイレ等は温度や湿度に気を配ると共に、匂いや明るさ等にも気をつけている。ホールで過ごされる場合でも採光に気を配っている。また、利用者が作成した季節を感じられる貼り絵や写真を周辺に掲示している。	光が十分に差し込む窓があり、白い壁には、利用者・職員と合作の切り絵、貼り絵、行事の際の写真等が掲示されている。整理整頓され、清潔で臭いが無い。冬季間は、ホール、各居室にそれぞれ加湿器が設置され、感染症対策にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々で自由に編み物や縫い物をしたり写経をしたり、気のあった同士で歓談やゲームを楽しんだりできるように配慮している。食後には自室で休まれる方や読書をされる方等、それぞれが思い思いに過ごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた使いなれたものや仏壇も、本人や家族と相談して居室に配置する等して、落ち着いて居心地良く過ごしていたできるように配慮している。	入口には、それぞれ花の名前と氏名が印刷された表札が掲げられている。ベッド、エアコン、筆筒が備え付けられ、衣類は季節ごとに入れ替え家族に持ち帰ってもらっている。利用者の使い慣れたものや大切なもの(時計、位牌、仏壇等)を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の能力を活かし、各自で自立した生活を支援するために、見守りすると共に補助具や手すりを使用しての自力歩行の援助や、貼紙で理解しやすい表示をしたりして安全な環境に配慮している。		